* * * *

ノキシノブには2倍体 (2n=50), 3倍体 (2n=75), 4倍体 (2n=100) が報告されており, さらに高4倍体 (2n=102) の存在も知られている。今回, 関東地方においてこれらのサイトタイプがどのように分布しているかを知るため, 11産地84ヶ所の114個体について染色体数, 生育地の標高, 着生している基質の種類, 基質の傾斜度, 基質の方位, 生育地の湿潤の度合, 及び生育地の明るさの度合を調査した。

その結果, 染色体数については, 新たに 2n=51, 76, 101 の異数体がいくつか発見された。また, 2n=102 の高4倍体が正4倍体と同様, 量的に多く分布していることが明らかになった。各サイトタイプと生育地の基質, 傾斜度, 方位, 湿潤や明るさの度合との間には, 特に相関関係は認められなかった。しかし, 2倍体群は主として沿岸部あるいは低地に, 4倍体群は主として内陸部あるいは高地に分布するという傾向が認められた。

□天野鉄夫：**琉球列島有用樹木誌** 255 pp. 1982. 同誌刊行会, 那覇. ¥3,500 (送料300). 園原咲也氏の琉球有用植物誌は1952年に琉球林業試験場集報 No. 2 として出版されたが, 戦後多くの種が加えられ, また多少印刷上の誤りもあったのを天野鉄夫氏が改訂して, 沖縄県緑化推進委員会の機関誌「みどり」に昭和53年3月から57年1月まで4ヶ年に亘って連載された。本書はこれを一括して書物にしたものである。結局960種の多くが記載されており, 琉球が日本南部として意義があるだけに甚だ重要である。モリヘゴに始まりシロゴクラクチョウカに終るまで分類順に排列し, 方言名, 形質, 産地, 分布, 用途, 備考と適切な記載がしてある。ことに方言名は中々微に入り細を穿ってよく拾ってあるので, まことに参考になるが, 仮名書であるのが少々惜しい気がする。用途にも新らしい面がずいぶん書き込まれている。 (前川文夫)

□名古屋野生同好会植物サークル(編), 高木典雄(監修): **愛知の野草図鑑** 314 pp. 1983. 中日新聞本社, 名古屋. ¥2,000. 近頃県単位で図鑑の出版されることが多いがこれもその一つ。県単位で珍らしいものとしてカキノハグサ, ウンヌケ, シラタマホシクサ等が挙がっている。各頁を単位として写真と花の時期, 草丈, 生育場所及びノートを附け, 写真もできる限り大きく, 花や果実の写真を添えて理解を助けている。春夏秋の三季に分けたのも思い切りがよく, 三季毎に五十音順にしてあるが, 二三乱れているのはちょっと気になる。オオバウマノスズクサのノートに「昔は馬の首にこんな鈴をぶら下げたのでしょうか」とあるのも少し気にかかる。植物の図鑑は動物と違って葉, 花, 果実, 種子とまるで違うので, 小さな図鑑では苦心のいるところであると思う。 (前川文夫)